

医学専攻

●専攻の教育理念と教育目的

医学専攻では、全学的な課題である「地域」・「環境」・「生命」をキーワードに幾多の独創性に富む先進的研究を推進するとともに、他機関との共同研究や学際的研究も活発に行い、地域における医学・医療分野の研究・教育拠点として重要な役割を担っています。

医学・医療分野での幅広い専門的知識を備え、創造的研究が遂行できる研究者や、優れた研究能力と高度の専門的知識を備えた臨床医を育成し、そして研究成果を世界に向けて発信するとともに、地域における医学・医療の発展に貢献することを目的としています。

●専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

1. 知識・理解

- 1-1)専攻した医学・生命科学の領域に関して、深い専門的知識を有している。
- 1-2)医学・医療と生命科学や環境科学との融合領域・学際領域の広い学識を有している。

2. 思考・判断

- 2-1)自らの研究歴あるいは臨床経験に基づいて、一定期間に完遂可能な、新たな研究テーマを設定することができる。
- 2-2)自らの研究テーマに基づいて、実験や調査の具体的かつ現実的な計画を立案することができる。

3. 興味・関心

- 3-1)自らの研究の成果を、医学・生命科学のグローバルな展開あるいは地域医療の持続的な発展に生かそうとする積極性を有している。

4. 態度

- 4-1)実験室や調査フィールドあるいは臨床の場における実践的な経験に基づいた、医学者としての研究者倫理を有している。
- 4-2)自立した医学研究者として、学会での発表者および論文の著者としての責任感を有している。

5. 技能・表現

- 5-1)自らの研究成果を客観的に分析し、目的と背景・研究方法・結果・考察、さらに今後の発展の可能性について口頭で発表し討議することができる。
- 5-2)自らの研究成果について、国際的に通用する論文の形態で発表することができる。

●専攻のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

整備された大学院教育システムを最大限に活用できる、積極的で自由で先進的な考え方のできる人材を、本専攻では広く求めています。

1. 知識・理解／思考・判断

1-1) 入学後に専攻する研究テーマについて、その医学的背景や課題、関連する社会的ニーズなどについて、簡潔に説明できる。

1-2) 入学後の研究に必要な英文読解能力を有している。

2. 興味・関心／態度

[この領域については、以下のうちいずれか一つ以上を満たすこと]

2-1) 医学・生命科学領域の研究に強い関心を抱き、将来その分野の指導的研究者になることを目指している。

2-2) 医学・医療の特定の領域について高度の専門知識や技能を修得し、臨床の現場で先端的医療を実践することを目指している。

2-3) 社会人として病院や企業等で働きながら高度な研究を行いたいと希望している。

3. 技能・表現

3-1) 入学後に専攻する研究テーマについて、専門外の教員や大学院生にも分かりやすく説明するため、コンピューターソフト等を活用したプレゼンテーションができる。

3-2) [留学生の場合] 指導教員をはじめとする研究室や大学の教職員と、日本語ないし英語で、研究生活に差し支えないコミュニケーションができる。

●専攻のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

医学専攻では、自由で充実した先駆的な研究を可能にする場を学生に提供することで、幅広い専門的知識・技術を備え医学・生命科学およびその学際領域で創造的研究が遂行できる研究者や、優れた臨床能力と研究能力を兼ね備え地域の医療水準の向上に貢献できるアカデミックドクターを養成し、以って社会からの強い要請に応えてゆく。

この目的を達成するために、本専攻では従来からの講座制のうえに、基礎医学-臨床医学の融合を重視して構築した4つの領域を設けた。この領域制のもとで、高度かつ多彩な学際領域研究と基礎研究から臨床の現場へと還元するトランスレーショナルリサーチを推進、「患者から学び、患者に還元する医学医療」の文字通りの実践を目指す。この領域制では、学生が自分の希望や必要性によって多数の教員から充実した指導を受けることが可能になるシステムとしている。

主指導教員は当該分野の専門的な知識の教育や研究指導を担当し、多彩な領域から選任できる副指導教員は、境界領域や学際領域の先端的な指導を行う。また、選択実習という実習教育を通じて、若手教員から先端的な研究手法を学べるシステムも整備している。これらにより専門領域の研究遂行能力を高めると同時に、関連した広い領域の知識・技術も身につけることが可能である。また、本専攻では社会人入学制度を充実させ、働きながら学びや研究の場を求める人たち

に対して広く門戸を開いている。

専攻共通科目では、オムニバス講義による入門的・基礎的な授業の他、遺伝子組み換え実験や実験動物の取り扱い・RIの取り扱いなどの実践的な実習も開講しており、学生のニーズに応じて選択することができる。選択実習の履修後に新たに選択実習の担当教員を副指導教員として選ぶことも可能である。また、科目等履修生の制度を活用して、学部学生のうちに専攻共通科目の単位を取得することも可能である(愛媛大学医学部医学科 3~6 年の学生の場合には、科目等履修生にかかる学費は免除される。但し、科目等履修生になるためには一定の条件を満たす必要がある。)なお、初期臨床研修期間中に大学院に入学が可能な制度も採用している。

がんに特化した教育課程として、「臨床腫瘍学教育課程」を平成 20 年度より新たに設け、教育・研究を開始している。中国四国の大学が共同して形成したコンソーシアムにより、社会人大学院生向けに e-learning 教材を用意している他、単一大学内では受講が難しい多職種の合同授業も開講している。